



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## 大阪・関西万博

校長 永浜 裕之

2025年に開幕する大阪・関西万博は、参加国のパビリオン建設が順調に進んでいないことや、建設費の高騰によって当初予定を大きく超える費用がかかることなど、ネガティブな報道を目にします。ある討論番組では、「違約金を払い、今すぐ撤退すべき」と話す政治家さえいました。

私は、**万博中止や延期という決断をしたなら、今後の日本の在り方や、世界からの日本への信頼が大きく変わってしまうと考えます。万博開催は世界との約束です。指名を受けた以上、日本に託されたことを貫き通すことは、とても大切なことだと考えます。難題にぶつかっているとき、解決に挑み、確実に前に進もうという姿勢は、私たちがこれからどのように生きていくのかという、その姿勢にもつながることだと考えます。**

「万博（万国博覧会）」は、世界各国の文化を象徴するパビリオンや飲食店が一堂に会し、その国の様々な最先端技術が披露される、祝祭感にあふれる国際イベントです。

1851年のロンドン万博に始まり、1855年のパリ万博に続きます。フランスでは18世紀末から産業博覧会を開催していましたが、その自負もあってなのか、19世紀だけで5回の万博（1855年、1867年、1878年、1889年、1900年）を開催しています。パリ万博の目的の一つとして、保護貿易から自由貿易への転換で、産業を社会の基盤に置く思想「サン＝シモン主義」の実現を目指していました。また、当時のパリは、ナポレオン3世が知事に命じて街並み改造を図っていましたが、変貌するパリを世界に見せびらかすために万博を開いたとも言われています。

万博はパリの基幹道路網や上下水道などの都市基盤整備につながり、1889年のパリ万博ではエッフェル塔が、1900年のパリ万博ではメトロ(地下鉄)が登場しました。また、1900年のパリ万博は、オリンピックと同時開催となりました。オリンピックではオリンピックスタジアムは作られず、陸上競技には競馬場が使われました。水泳はセヌ川で行いました。オリンピックは重視されず、**当時オリンピックは、「万博の余興」という位置付けでしかなかったのです。**

日本は、江戸時代末期の1867年、パリ万博に公式参加しています。出品された陶磁器等の工芸品が、1870年代の「ジャポニズム」の流行に火を付けたと言われています。日本のパビリオンには日本家屋が建てられ、3人の芸者が日本の日常生活を再現したそうです。1878年のパリ万博では、パビリオンの正面に泉水を貯めた陶製の鉢の水飲み場が設けられ、大盛況となったそうです。

私は、昭和45年（1970年）の大阪万博を見学しましたが、前年のアポロ月面着陸で持ち帰った「月の石」や、太陽の塔の雄姿など、鮮烈に覚えています。

1970年の大阪万博は、日本の国際的地位を高め、成功裏に終わった印象がありますが、順調に準備が進んだのでしょうか。気になったので、当時の新聞報道を調べてみました。

「参加を表明した48か国のうち、パビリオンの建設を始めたのはわずか4か国」、「腰の重かった政府もやっと本格的に取り組む姿勢」、「物価の上昇が建設費を押し上げている」・・・等々、1970年と2025年の状況は重なって見えます。1970年の大阪万博は順調に開催された印象がありましたが、そうではなかったのです。

最近、「ヒトはなぜ先延ばしをしてしまうのか（ピアーズ・スティール）」という書物を読みました。

カナダの心理学者であるピアーズの書には、人間が物事を先延ばしするようになったのは、農業が始まったとされる9,000年前に遡ると記されています。人間の脳は、働きたいときに働き、眠くなった時に眠るというように、欲求に従って行動していた時代に設計されたと、ピアーズは述べています。

農業が始まり、春に作物の種をまき、秋に作物を刈り取るという「締め切り」を設けましたが、私たちに締め切りを確実に守る能力は備わっていないと論じています。ピアーズは、私たちの脳は物事を先送りするように設計されていると言い切っています。

とはいえ、脳の特性にしがたって「万博への対応を先延ばしにする」わけにはいきません。知恵を出して解決していく必要があります。

パリは万博を経て、「花の都」と呼ばれるようになりました。

大阪・関西万博は、万博史にどのように記されるのでしょうか。時間に限りがあるとはいえ、万博の魅力が増すように知恵を集め、成功裏に終えることができるように、協力していきたいと考えます。

**専門高校生徒海外派遣研修  
フィンランドコース 参加報告**

12/17～22の6日間、定時制情報科の生徒4名がフィンランドへの海外派遣研修に参加しました。学校交流の他、企業訪問や現地の様々な施設の視察などを通して、多くのことを学んでくることができました。以下は参加生徒からの一言です。

**J23 中川 裕太**

フィンランドではデジタル化が進んでおり、学校や日常生活で独自の仕組みや便利なシステムが利用されていました。また、お店のロゴなどのデザインは全体的にシンプルで誰にでも分かりやすいものだと感じました。このようなフィンランドで見た使いやすいシステムや見やすいデザインは現代のデジタル社会で求められると思います。これから作品を制作するときには、そういった視点を意識して作りたいです。

**J23 林 慧**

現地の高校生と交流し「自分の意思で動くことの大切さ」を学びました。今回の研修を通して、失敗や周りの目を恐れずに自分の意見を発表したり、もし意見が解決に繋がらなくても他の人の意見と合わせて解決策を探したりするなど、とにかく意見交換をすることが大切だと分かりました。これは学校生活でも活かせると思います。僕もこれからは思いついた意見を積極的に出し、より良い学校生活を今後も作っていききたいと思います。

**J24 黒川 大樹**

この研修を支えてくれた全ての人に感謝しかありません。海外へ行くことが自分とは無縁のことであると思いついていましたが、この研修で初めて海外に行くことで、その面白さを知りました。様々な施設を見学したり、市長と対談したりする経験は僕1人でできる経験ではありません。僕自身もっと英語を勉強し、これからはもっといろいろなことを経験していききたいと思います。

**J24 パスティーダス レオナルド 勇一郎**

「自国の歴史や文化を伝えられる知識がいかに大切なのか」実感しました。現地の高校生との交流の際、日本とフィンランドの歴史的なつながりや、日常生活の違いなど、互いの歴史や文化について話し合い、盛り上がりました。今回の体験から、改めて自国のことを学び、今後海外に行くときにお互いの良さを伝えあえるようにしたいです。



**パソコン甲子園出場**

**情報科 中山 享司**

11月11日(土)12日(日)の2日間、福島県にある会津大学にて、J21の志村さんとF31の答島さんが、パソコン甲子園2023プログラミング部門本選に参加しました。

パソコン甲子園とは、コンピュータ理工学が専門の会津大学が主催する、高校生・高等専門学校生のためのICT分野の全国大会で、プログラミング部門のほかにAndroidアプリを開発するモバイル部門と個人でCG作品を描き上げる一枚の絵部門があります。

プログラミング部門の競技は1日目に行われました。競技は4時間に及び、その中でキーボードが壊れるなどのアクシデントに見舞われましたが、最後まで諦めずに取り組むことができました。

夕食は選手交流会を兼ねており、全国の強豪選手たちと交流することを通して今後も頑張るモチベーションを得られたようです。

2日目はモバイル部門の決勝が行われ、作成したアプリのプレゼンテーションを見学しました。その後1日目に取り組んだ問題解説が行われ、自分たちができなかった問題についての理解を深めました。

この経験を通して、今後は情報オリンピックに力を入れていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。

**高文連会長賞受賞にあたり**

**将棋部 廣瀬 弘来**

私は、今年度の春から新宿山吹高校に転学しました。とにかく将棋が好きで、そのため将棋部のあったこの学校を選びました。

転学は、孤独や不安と同時に将棋大会での結果を残さなければという焦りを伴いました。暗い道しか見えず、進む勇気も消えかけていました。そんな私を再び立ち上がらせて下さったのが将棋部顧問の仁井先生を始め、山吹高校の先生方でした。

仁井先生は、将棋大会に引率して下さる際も、常に私のことを気にかけて、負けると私と同じほど悔しがって下さいました。また、その頃、私は野球部にも所属していたのですが、その試合会場にも駆けつけて応援して下さいる先生を見て、とても嬉しかったし、勇気を頂いたことを覚えています。

このような一つ一つの思いやりのある行動が、私の疲れ切った心に光を与えてくれました。そのおかげで、泥沼の中でもがき苦しみ、道を踏み外してもなんらおかしくなかった私は、今の正しいと思える道を、歩みたいと思える道を進むことができています。

これは、私の新たなステージをこの新宿山吹高校で始められたからだと思います。だから私はこの学校に巡り会えて本当に良かったと思うし、今後どのような人生を送ったとしても、山吹こそが私のスタートラインであることは変わりません！

**最後に、仁井先生へ**

**本当にお世話になりました。ありがとうございました！！**

**定時制課程 学校行事予定**

- 1月26日(金) 情報科、推薦による入学者選抜  
※ 生徒登校禁止
- 2月5日(月) 自己探索学習⑨
- 16日(金) 期末考査時間割発表

**通信制課程 学校行事予定**

- 1月27日(土) 後期試験(1日目)
- 2月3日(土) 後期試験(2日目)
- 10日(土) 後期試験(3日目)